

令和4年度 実施事業の概要

教育事業名: 令和4年度体験活動普及啓発事業「親子でブッシュクラフト！」

期間: 令和4年10月15日(土)

対象及び参加人数: 小学生を含む家族 9組 24名

目的: ・小学生及びその家族に、自然体験活動の機会を提供する。
 ・体験を通し、家族の絆を深めたり、野遊びの楽しさを味わったりする。
 ・野遊びの基本と、必要なものを森にあるものから作り出す、生きる力を手に入れる。

事業概要:

妙高青少年自然の家の森をフィールドに、シェルター作りや火おこし、焼きリンゴ作りなど、森のサバイバル術体験を親子で楽しむ。

【講師】末次 克洋 氏・玉田 尚子 氏 (すえなみブッシュクラフトスクール長野)

成果:

道具をなるべく使わずに、自然にあるものを活かして森の中で過ごす体験は、親子の仲を深めるだけでなく、子供たちの中にある生きるための知恵や術などを引き出すきっかけとなった。



まずは、森の中で感覚瞑想エクササイズを行った。五感を使いながら自分の居心地のよい場所を探し、シェルターの設営地を決めた。次に、森を歩きながらシェルター作りに必要な枝を探した。太さや長さ、曲がり具合などに注目し、辺りをよく観察しながら、楽しそうに探す姿が見られた。

シェルター作りに必要な「巻き結び」や「自在結び」などのロープワークを学んだ。腕を枝に見立てて、ペア同士で結び方を何度も練習した。シェルターを設営する場面では、ロープやシートの張り具合や角度を確認しながら、家族で協力してシェルターを作る姿が見られた。

焚火をする場面では、森に落ちている枝を拾い集めて燃料にした。どのような枝を集めるとよいか、どのような順番でくべるとよいかなど、火おこしについて考えながら活動する姿が見られた。また、おこした火で作った焼きリンゴは、おいしいと参加者から好評だった。

以下、アンケート結果(一部抜粋)

- ・火の調節が難しかったけど、初めて焼いて食べたリンゴはとてもおいしかった。(子供)
- ・火をつけたりひもをたくさん結んだりするのがとても楽しかった。(子供)
- ・命を守るために大切な知識を得ることができ、災害時に役立つと思った。(保護者)
- ・子供は自然の中よりもメディアで遊ぶことが多い。今回の体験は自分自身にとっても子供にとってもとても良い経験になった。(保護者)

課題:

- ・スケジュールに活動を詰め込みすぎたため、振り返りの時間をゆっくりとすることができなかった。活動を精選するか、1泊2日で日程を再検討するとよい。
- ・森のフィールドの整備が不十分だった。活動場所を再検討するか、地面の整備が必要。